

## 電 气 学 会 々 報

[29-2]

## 昭和 28 年度事務及び事業報告

昭和 28 年 4 月から 29 年 3 月に至る間において行った事務及び事業の概要を報告する。

## 1. 会 員

正、准員の異動 は次の如くである。

	正員	准員	合計
再登録	56	0	56
入会	607	554	1,161
転出入	(+)	762	0
退会	211	39	250
死亡	35	2	37
除名	767	183	955
差引	(+)	412	(-) 25

29 年 1 月 1 日、前副会長近藤茂君が逝去された。

事業維持員の異動 は次の如くである。

	社数	口数
入会	20	57
退会	19	26
差引	(+)	1

期末会員数 29 年 3 月末現在の会員数は次表の如くで前期末に比し 24 名を減少した。尙期末会員数中には住所不明者及び長期会費滞納者約 480 名があり調査中である。

	28 年 3 月末	29 年 3 月末	増減
名譽員	5	5	0
正員	9,833	10,245	(+) 412
賛助員	3	3	0
維持員	251	232	(+) 1
准員	1,896	1,459	(-) 437
合計	11,988	11,964	(-) 24

正員中「特例会員」は 261 名、「終身会員」は 604 名である。

## 2. 会 合 数

本期間の会合数は 1,088 回で、前期 818 回に比し 270 回を増加した。

総 会	1 回
役員会	5 回
理事会	12 回
対外委員会	1 回
財務委員会	2 回
編修会	12 回
編修幹事会	12 回
ニュース委員会	12 回
広告委員会	11 回
賞金委員会	2 回
ハンドブック委員会	1 回
大会企画委員会	8 回
大会実行委員会	7 回
ルイス招聘委員会	9 回
電気規格調査会	295 回
技術委員会	491 回
研究委員会	99 回
電気技術普及会	1 回
通信教育会	96 回
CIGRE 國内委員会	5 回
その 他	6 回
合 計	1,088 回

## 3. 規程の制定及び改正

(1) 28 年 5 月、定款を改正し、事業維持員酬出金 1 口の金額 2,500 円を 5,000 円に改めた。

(2) 28 年 9 月、賞金贈与規程及び電気学術振興賞規程を改正し、「電力賞」を「電力功績賞」と「電力技術賞」に分け、また電気学術振興賞の進歩賞、改良賞、論文賞、文献賞各 2 件を、進歩改良両賞を合併して進歩賞 4 件、論文賞 3 件、文献賞 1 件に改めた。

(3) 28 年 12 月、「調査研究委員会規程」を制定した。

(4) 29 年 3 月、日本 CIGRE 國内委員会規程を承認、「調査企画委員会規程」を廃止した。

(5) 28 年 8 月「電気技術普及会規程」を廃止した。

## 4. 寄附金の受領

28 年 7 月、東北電力株式会社清算人内崎義五郎氏から金 100 万円の寄附があり、これを受領した。寄附の条件は、「元金はこれを据置き、その利子を電力の発生、送電、配電に関し学術上または技術上の功績顕著なる者の表彰に充当する」ものである。それで、上記の如く賞金贈与規程の一部改正して、電力賞を拡張して寄附の趣旨に添うこととした。

## 5. 功績の表彰

28 年 5 月、通常総会において次の諸君に賞状及び賞金を贈呈した。

浅野賞	宇田新太郎君
電力賞	森 寿五郎君
電気学術振興賞	
進歩賞	橋本 清隆君
同	川井 次雄君
改良賞	高橋 治男君
同	{ 坂所 明二君 大橋 謙蔵君 }
論文賞	池田三穂司君
同	山本 賢三君
文献賞	{ 法貴 四郎君 三田 升君 }
同	熊谷 三郎君

## 6. 大会及び講演会

大 会 28 年 5 月、連合大会を仙台において開いた。(従来大会には「第何回」と冠していたが、この大会から、「昭和 28 年連合大会」の如く呼称することとした。) また 10 月～11 月には、各支部において夫々支部連合大会を開いた。全國大会及び支部大会における一般講演の総数は 1,318 件で、前年の 1,267 件に比し 51 件を増加した。

支部大会の一般講演は今期から 2 種となった。その一つは連合大会企画委員会で募集したものでこれは全

支部のものを取まとめて予稿が出版され(次表A), 他は支部において募集したもので予稿は概ね支部において出版された(次表B)

	一般講演件数		
	(A)	(B)	計
全 国 大 会	558	0	558
東京支部大会	359	0	359
関西支部 "	119	19	138
九州支部 "	3	43	46
東北支部 "	33	24	57
東海支部 "	18	70	88
中国支部 "	0	12	12
北海道支部 "	16	6	22
北陸支部 "	9	16	25
四国支部 "	3	10	13
合 計	1,118	200	1,318

講演会、講習会、見学会 本期間に本部及び支部において開いた講演会等は 99 回で、前期 84 回に比し 15 回を増加した。この内訳は次の如くである。

	講演会	講習会	見学会	合 計
本 部	5	0	0	5
東京支部	10	2	1	13
関西 "	9	2	2	13
九州 "	5	0	3	8
東北 "	10	0	1	11
東海 "	6	0	2	8
中国 "	13	0	1	14
北海道 "	7	0	2	9
北陸 "	4	0	2	6
四国 "	8	0	1	9
茨城支所	1	0	2	3
合 計	78	4	17	99

本部講演は国際理論物理会議その他で来邦された海外権威者の講演会であり、またルイス博士の講演会 10 回は、各支部講演会に含まれている。

## 7. ルイス博士の招聘

送電線雷現象、避雷器研究の権威である W.W. ルイス博士の招聘は、前年度來の懸案であったが、米国大使館の協力と、各電力会社、主なる電機及び電線製造各社の援助により実現に至った。博士は 28 年 10 月

5 日来邦、各支部所在地において 10 回の講演を行い、また数回の座談会、各地歓迎会に出席、11 月 13 日帰國の途につかれた。(28 年 12 月参照)

## 8. 雜 誌

本期間に次の 12 冊を刊行した。

卷・号	年・冊	発行年月日	総ページ数
73・775	28・4	28.4・10	110
	776	5	5・9
	777	6	6・12
	778	7	7・13
	779	8	8・14
	780	9	9・10
	781	10	10・15
	782	11	11・12
	783	12	12・12
74・784	29・1	29.1・16	134
785	2	2・15	186
786	3	3・13	132

発行年月日は実際のものを示す。総ページ数には綴込広告を含まない。

以上 12 冊の総ページ数は 1,850 ページで、前期 1,272 ページ (13 冊) に比し 578 ページを増加した。また一冊平均は 154 ページで、前期 98 ページに比し 56 ページを増加した。欄別のページ数を示すと次の如くである。

	前 期	本 期	増 減
会長演説・説文	7	2	(-) 5
資料及び論文	360	619	(+) 259
特集論文	82	114	(+) 32
論文要旨	5	0	(-) 5
講演	20	60	(+) 40
報告	31	59	(+) 28
討議会記事	76	49	(-) 27
誌上討論	17	2	(-) 15
寄書*	10	10	0
技術綜説	140	224	(+) 84
学界時報	124	16	(+) 44
ニュース	30	52	(+) 22
規格、特許紹介	32	40	(+) 8
製品紹介	30	32	(+) 2
調査委員会記事	14	28	(+) 14
会報	19	17	(-) 2
大会講演題目	24	15	(-) 9
日次、会告、広告	251	359	(+) 108
合 計	1,272	1,850	(+) 578

\* 追悼記事を含む

## 9. 出 版

電気工学ハンドブックの重版 28 年 5 月に再版、11 月に三版を発行した。再版の発行に際しては誤植を全部訂正した外に 16 ページの補遺を追加し、初版購入者に対してこの補遺を無料で頒布した。

電気工学年報・27 年版の出版 25 年版以降の事項をまとめ 7 月に出版した。(B 5 版本文 301, 製品紹介 173, 図書紹介 6, 合計 480 ページ)

会員名簿の出版 9 月出版、無料にて頒布した。

統計的品質管理の出版 28 年 6 月、東京支部において開催した専門講習会の予稿を出版した。(A 5 版 350 ページ)

昭和 28 年連合大会講演論文集の出版 (28 年 4 月)

同 支部連合大会講演論文集の出版 (28 年 10 月)

電気工学ポケットブック・ジュニア版の重版 (28 年 7 月, オーム社)  
標準電気用語の重版 (28 年 11 月, コロナ社)

電気規格の出版 (初版 6 種, 重版 14 種, 電気書院)

## 10. 電 气 規 格

電気規格調査会本期間に会合数は 295 回で前期 281 回に比し 14 回を増加した。

調査委員会の新設及び解散 新設した委員会は「計器用変成器」「高速度遮断器」「直流機」の 3 委員会であり、「断路器」「進相用蓄電器」の 2 委員会は調査が完了したので解散した。

規格の制定及び改訂 本期間に制定または改訂した規格は次の 8 種である。

(1) 送電用鉄塔設計標準 JEC-127 (1953) … JEC-22 A 及び JEC-22 AZ を改訂

(2) 送電用鉄塔設計標準 JEC-

128 (1953) ... JEC-22B を改訂	age of 1,000 V and upwards.	ル*
(3) 送電用コンクリート柱設計	(意見なし)	(8) 通信関係用語
施工標準 JEC-129 (1953)	(6) Specification for Impulse	(9) 計測器関係用語*
(4) アルミ電線 JEC-130	Voltage Tests prepared as a re-	(10) 電力関係用語*
(1954) ... JEC-97(1944) を改訂	sult of the decisions taken at	(11) 指示電気計器用解説書
(5) 誘導機 JEC-37 (1954) ...	Scheveningen in September,	(12) 交流積算電力計*
効率の項を改訂	1952. (条件付賛成)	(13) 需用計*
(6) 直流機 JEC-54 (1954) ...	(7) Draft Recommendations for	(14) 記録温度計
同上	Insulation Coordination. (条件	(15) 計器用変成器
(7) 電気機器一般 JEC-86	付賛成)	(16) 電線の許容電流
(1,954) ... 同上	(8) Specification for Electrical	(17) 600 V ビニール電線
(8) 同期機 JEC-114 (1954) ...	Equipment Installed on Motor	(18) 電力線搬送用ブロッキング
同上	Vehicles. (条件付賛成)	コイル
<b>JIS 原案の作成</b> 日本工業標準規格 (JIS) の原案を作成したものは次の 7 種である。	(9) Modifications to be made to	(19) 放電管用変圧器
(1) 進相用コンデンサ用放電コイル及びリアクトル	the second edition (1950) of	(20) カバー付ナイフスイッチ*
(2) 指示抵抗温度計	Publication No. 48, Rules for	(21) トロリーバス用架線金具*
(3) 指示熱電温度計	Electric Traction Motors. (賛成)	(22) 電気車軸用附属機器*
(4) 熱電対	(10) Draft Specification for Elec-	また IEC 原案につき 目下調査中のものは次の 4 種である。
(5) 路面鉄道電車線用架線金具	tric Transmission on Diesel	(1) International Electrotechnical Vocabulary, Revision of the
(6) 計器用変成器	Vehicles. (回答保留)	1st edition (1938)-Switch Boards and Apparatus for Connections and Regulation
(7) 開放ナイフスイッチ	(11) Draft Rules for Auxiliary	(2) Draft I.E.C. Standard for Power Transformers.
<b>IEC 原案に対する意見の提出</b>	Machines on Motor Vehicles.	(3) Advisability of giving a scientist's name to the unit of magnetic flux density in the Giorgi system.
国際電気標準会議 (IEC) の原案に対し調査し本邦としての回答案を作成したものは次の 14 件である。	(条件付賛成)	(4) International Specification for tests on Impregnated paper-insulated lead-covered cables (solid type) for voltages of 10 kV to 66 kV.
(1) Draft I.E.C. Standard System Voltages. (条件付賛成)	(12) Inquiry into the standardization of voltages for electric equipment. (日本の現状を報告)	(附記)当会多年の標準化事業の功績に対し、通商産業大臣より感謝状が授与された。
(2) Text of the resolution approved by the Experts Committee of T.C. 24 (Electric and Magnetic Magnitudes and Units) at their meeting in Opatija, July 1st 1953. (賛成)	(13) Draft Recommendations for Watt-hour Meters for the measurement of alternating-current electrical energy. (条件付賛成)	
(3) Electrobiology; 1st Draft prepared by the U.S. National Committee. (賛成)	(14) Draft Recommendations on Determination of Efficiency of Rotating Electrical Machinery. (賛成を保留、日本の現状報告)	
(4) International Specification for the Construction of the Enclosures of Flameproof Electrical Apparatus. (条件付賛成)	<b>調査中の規格</b> 目下制定または改訂につき調査中のものは次の 22 種であって、この中の *印 9 種は近く決定の予定である。	
(5) International Specification for Glass Insulators for Overhead Lines with a Nominal Volt-	(1) 避雷器*	
	(2) 鉄製水銀整流器	
	(3) 空気遮断器	
	(4) 交流油入自動遮断器	
	(5) 柱上油入開閉器*	
	(6) 高速度遮断器	
	(7) 電灯、電力内線関係シンボ	

## 11. 調査研究

本期間における技術委員会、研究委員会等の会合数は 596 回で前期 318 回に比し約 2 倍に近く 278 回を増加した。

**委員会の新設及び解散** 海外学会調査、内外研究所調査、水力発電

及び変電、火力発電、送電、配電、給電、電力系統技術、通信、閃絡電圧、有機材料劣化問題の 11 専門委員会を新設し、衝撃電圧資料整備専門委員会は調査を完了し解散した。

これ等本会の技術活動を有効適切とするため 12 月「調査研究委員会規程(本年 2 月号会誌所載)」が制定せられ次年度より実施されることになった。

**調査完了事項** 調査を完了したものは次の通りである。尙この外電気工学年報 29 年版の編集、連合大会における部門講演の選定、学会誌技術総説執筆者の斡旋等を行った。

- (1) 研究所の管理、研究成果の活用(懇談会記録)
- (2) 電気工学に関する工業教育(〃)
- (3) 研究成果の向上策
- (4) 米国電気学会の会員制度及び活動状況
- (5) 水銀整流器変電所の遠方制御方式簡素化案
- (6) 点弧子の現況
- (7) マイクロ波真空管(基礎理論、電子銃、クライストロン測定管)
- (8) 送信管(テレビジョン用)
- (9) 陰極材料及び測定に関する調査
- (10) 絶縁材料(合成雲母)
- (11) 絶縁材料の絶縁破壊試験方法
- (12) 絶縁材料に対する ASTM 耐アーケ性規格案の検討
- (13) 絶縁材料に対する耐アーケ性試験装置の試作
- (14) 半導体材料の電気工学上への応用
- (15) 有機材料関係湿気にに関する用語の統一、湿度調整法、吸湿測定法、透湿率測定法
- (16) 有機材料劣化関係の内外文献調査
- (17) 硅素鋼板磁性の湿度特性

- (18) 25 cm エプスタイン試験器
- (19) 電力関係諸問題座談会(討論会記録)
- (20) ピン型がいしの衝撃閃絡電圧の検討
- (21) 線路保守の機動化
- (22) 招弧装置
- (23) 段絶縁変圧器の誘導試験
- (24) 超高圧線の 230, 250, 275 KV 級諸比較
- (25) 諸外国における超高压系統
- (16) 諸昇圧方法の比較
- (27) 十勝送電幹線電圧
- (28) 配電盤に関する外國規格
- (29) 保護繼電器に関する外國規格
- (30) 全国の電熱需用調査
- (31) ビルディング照明
- (32) 紫外線の応用
- (33) ネオンサインの研究
- (34) コンデンサ型計器用変圧器
- (35) CT の零相三次巻線の選定並に試験基準
- (36) 送配電線障害波に関する基礎的事項(送配電線の高周波伝送特性及び海外文献)
- (37) 雑音測定器仕様書
- (38) 故障時電磁誘導調整に関する問題の所在並に障害防止対策についての中間報告
- (39) 東海道線電化区間ににおける誘導試験
- (40) レールボンド規格草案
- (41) 電蝕用記録計器
- (42) 許容鉛被電流
- (43) 防蝕ケーブル
- (44) 電蝕の化学的防止法
- (45) 排流器及びその施設に関する諸問題
- (46) 排流によるケーブル鉛被防蝕法の経済性と共同排流の場合の通信ケーブル保護問題の考察
- (47) 27 年度都市別水道管の腐蝕
- (48) 硫酸銅電極による電位測定法

- (49) 細菌腐蝕
- (50) 被覆塗装の電気的試験法
- (51) 昭和 28 年度通信線の雷異常電圧の実測

**調査中の事項** 現在調査中の主な事項は次の通りである。

#### 部門委員会

- (1) 英、仏、瑞西各学会の制度と活動状況
- (2) N.B.S. 及び Bell の研究機関の調査
- (3) 国内主要研究機関の実態調査
- (4) CT の過渡時特性
- (5) 取引等に使用する PT
- (6) CT 及び PT の絶縁性能
- (7) 計測器の受ける振動と衝撃並にその試験方法
- (8) 水力発電機無拘束試験実施の実情と無拘束速度発生件数
- (9) 水力発電所建設工事用動力と工事用変電所の実態
- (10) 送電線用支持物
- (11) 送電線建設工事機動化と建設方法
- (12) 配電線の電圧調整
- (13) 配電用コンデンサ
- (14) 電力用通信に関する用語及び記号の統一
- (15) 給電用語
- (16) 調整式発電所の有効利用
- (17) 需用の特性分析
- (18) 遠隔測定
- (19) 同期機規格の検討
- (20) 変圧器試験方法
- (21)  $\pi$  型円線図法の検討
- (22) 二重かご形誘導電動機特性算定法の検討
- (23) 誘導機規格の再吟味
- (24) 水銀整流器規格の検討
- (25) 水銀整流器使用の実態調査
- (26) 過電流遮断器の等価試験法
- (27) 磁気增幅器用紙の定義
- (28) 磁気增幅器用鉄心の試験法
- (29) 避雷器の長時間放電耐量試験

- |  |  |                           |
|--|--|---------------------------|
| (30) 避雷器の中間周波に対する放電特性                    | (55) 硅素鋼板受入時の鉄損試験規格  | (83) テレビジョン受像に及ぼす雑音の影響    |
| (31) 避雷器に関する文献                           | (56) 硅素鋼帯の試験法  | (84) 高周波ミシン及びウェルダの妨害波対策   |
| (32) メタルクラッドとキュビカルの定義と規格                 | <b>自動制御特別委員会</b>   | (85) 超高圧送電線のコロナ雑音         |
| (33) 絶縁材料の絶縁抵抗測定方法                       | (57) 自動制御標準用語  | (86) 電気鉄道の雑音              |
| (34) 固体絶縁材料の商用周波数による高電圧、小電流耐アーチ性試験方法     | <b>送配電線電波障害調査特別委員会</b>   | <b>電力網異常現象研究委員会(関西)</b>   |
| (35) 電源周波数 50 c/s, 60 c/s による絶縁材料試験結果の相違 | (58) 送配電線障害波に関する基礎的事項(電線コロナによる障害波, がいしによる障害波, 送配電線結合率, 障害防止対策) | (87) 配電線のサーボテストと避雷器の保護効果  |
| (36) 絶縁材料の誘電率及び誘電正切試験方法                  | (59) 送配電線障害波の実態  | (87) 昭和 29 年度通信線の雷異常電圧の実測 |
| (37) 有機材料関係、湿度測定法, 吸湿による電気的性質の劣化         | (60) 同障害波に対する総合結論  |                           |
| (38) ニッケル及びニッケル合金の分析方法                   | <b>送電々圧特別委員会</b>   |                           |
| (39) 国産ニッケル地金及び国産ニッケルによる各種含ニッケル材料        | (61) 標準電圧 (JEC-34) の検討   |                           |
| (40) 紫外線装置による有機材料劣化促進試験                  | (62) 標準電圧の決定 (230, 275 kV 級)                                   |                           |
| (41) 気体、液体及び固体絶縁物の物理的及び電気的諸特性            | (63) 195 kV 未満の有効接地系の標準電圧の検討                                   |                           |
| (42) 電動力応用におけるエレクトロニクスの問題                | (64) 超高圧送電線の電線太さ   |                           |
| (43) 船舶における電動力の応用                        | (65) 絶縁協調推奨案   |                           |
| (44) 重荷重起動用同期電動機の選定                      | (66) がいし調整   |                           |
| (45) 各種自動制御の新らしい実施例                      | <b>電蝕防止研究委員会</b>   |                           |
| (46) 各種電動力応用実施例                          | (67) 軌条漏洩電流の簡易測定法  |                           |
| (47) 電解ソーダ工業における電力不足とその対策                | (68) コンクリート枕木の電蝕防止   |                           |
| (48) 軽金属工業の近況                            | (69) コンクリートポールの電蝕防止  |                           |
| (49) 硫安工業における電力不足と水電解                    | (70) 電気工作物規程の技術的検討(電蝕関係)                                       |                           |
| (50) 最近の Zn 製錬法                          | (71) 防蝕テープまたは防蝕塗料  |                           |
| (51) Zn 電解工場における停電被害                     | (72) 沃度電量計の改良  |                           |
| (52) 映画照明の研究                             | (73) 鉛被の化学的腐蝕  |                           |
| (53) 電鉄用変電所の合理的間隔と容量                     | (74) 電蝕進行速度試験法   |                           |
| <b>珪素鋼板特別委員会</b>                         | (75) ケーブルに対する陰極防蝕法   |                           |
| (54) 定尺板試験装置                             | (76) 鉄管の防蝕電位並に対地電位測定法  |                           |
|  | (77) 埋設管の電気防蝕法   |                           |
|  | (78) 鉄管塗装の防蝕効果   |                           |
|  | (79) 鉄管の電気防蝕の経済性   |                           |
|  | (80) 鉄管腐蝕原因の判別方法   |                           |
|  | <b>誘導調整委員会</b>   |                           |
|  | (81) 故障時電磁誘導障害の防止対策並に誘導調整基準                                    |                           |
|  | (82) 電鉄よりの誘導調整基準   |                           |
|  | <b>妨害電波研究委員会(関西)</b>   |                           |

## 12. 通 信 教 育

現在開講の大学講座は、電気理論、電気磁気測定、電気機械、発電、送配電、電気材料と高電圧、電気鉄道の 7 講座、工高講座は電磁事象の 1 講座である。本期間に発行した教科書は次の如くである。

- 初版教科書 (5 種)
- (1) 過渡現象論
  - (2) 電気磁気測定 II
  - (3) 水銀整流器
  - (4) 発電工学水力編 II
  - (5) 電磁事象 II (工高講座)
- 重版教科書 (23 種、累計 69 版)
- (1) 電気磁気学 (8 版～14 版)
  - (2) 電気回路論 (5 版～9 版)
  - (3) 放電現象 (4 版～7 版)
  - (4) 原子物理学・物性論 (3 版～5 版)
  - (5) 過渡現象論 (2 版～4 版)
  - (6) 電気磁気測定 I (2 版～4 版)
  - (7) 变压器 (6 版～8 版)
  - (8) 電気機械設計概論 (3 版～5 版)
  - (9) 誘導機 (3 版～5 版)
  - (10) 同期機 (3 版～5 版)
  - (11) 水銀整流器 (2 版～3 版)
  - (12) 变電工学 (4 版)
  - (13) 発電工学水力編 I (5 版)
  - (14) 送配電工学送電編 I (6 版～9 版)
  - (15) 同 送電編 II (5 版～6 版)
  - (16) 同 送電編 III (5 版～6 版)

- (17) 配電工学 (4 版~7 版)
- (18) 電気鉄道 I (4 版~6 版)
- (19) 同 II (3 版~4 版)
- (20) 電気材料 I (2 版~5 版)
- (21) 同 II (2 版~5 版)
- (22) 電磁事象 I (2 版~3 版)
- (23) 同 II (2 版)

**受講生と終了者数** 本期間の入講者は大学 1,661 名 (累計 8,135 名), 工高 356 名 (累計 807 名), また本年度受講終了者は送配電工学 308 名 (累計 363 名), 電気鉄道 10 名 (累計 16 名) である。

**文部省検定教科書** 「電磁事象 I」は検定教科書となり, 尚「電磁事象 II」は内容検定を得た。

**通信教育行事** (1) 28 年 6 月 9 日文部省において通信教育表彰式があり, 本講座からは送配電工学修了者 3 名が表彰を受けた。(2) 8 月 16 日札幌において北海道地区的全通信教育受講生大会があり, 星合理事と本間職員が参加した。

### 13. 日本学術会議関係

(1) 第 3 期会員選舉に際し, 電気通信学会及び照明学会と連合して全国区 4 名, 地方区 8 名の候補者を推薦したが, 全国区は全員, 地方区は 5 名が当選された。

(2) 中央選舉管理委員会委員として 3 学会の協議により大槻喬, 大内誠三, 後藤以紀, 堤秀夫, 丹羽保次郎の 5 氏を推薦した。

(3) 昭和 29 年度文部省科学研究費等の電気工学部門の審査委員として 3 学会協議により 4 名を推薦したが, 広田友義, 山田直平の両氏が任命された。研究費の配分について本会及び電気通信学会の編修委員数氏が援助した。

(4) 日本学士院会員補欠候補者として 3 学会の協議により大山松次郎君を推薦した。

### 14. 海外関係

(1) 電気工学論文集の廃止に伴い海外に送付する本会雑誌には英文の内容梗概を巻頭に集録することとした。

(2) 英国電気学会に対し, 前年に引つづき "Proceeding" 200 冊, "Science Abstracts" 122 冊の購

入をあっせんした。

(3) 国際大送電網会議(CIGRÉ)には 28 年 4 月再加入した。尙本邦における他の入会者と「日本 CIGRÉ 国内委員会」を組織し, 29 年 5 月パリ大会に 7 編の論文を提出した。(附記, この大会には福田節雄君等 8 氏が出席した。)

## 役員改選報告

会長安藤弥輔, 副会長駒井健一郎, 一本松珠璣, 総務理事山田直平, 会計理事小林宏治, 編修理事広田友義, 西野治, 調査理事高木昇の諸君が, 29 年 5 月通常総会を以て任期満了退任となるので, 改選の結果次の諸君が当選した。

会長 石川 潔(東芝)  
副会長 島津保次郎(日本電気)  
同 白川 応則(東北電力)  
総務理事 久野 清(電試)  
会計理事 林 潔(東京電力)  
編修理事 池田三穂司(電試)

同 中島 正道(東京電力)  
調査理事 森脇 義雄(東大)

この選舉における投票総数は 3,739 票, 投票率 41.3% で前年度 33.4% に比し 7.9% を増加した。各候補者の得票数は次の如くである。(2 票以下略)

会長 1,403 石川潔, 1,198 加藤信義, 1,075 森寿五郎, 副会長

1,441 島津保次郎, 995 大富真, 917

池田敬三 副会長 1,501 白川応則,

1,276 井上八郎右衛門, 654 中村宏,

総務理事 1,260 久野清, 1,187 関村

忠雄, 1,134 斎藤幸男, 会計理事

1,603 林 潔, 1,029 吉山博吉, 913

山本広三郎, 編修理事 2,277 池田

三穂司, 1,496 中島正道, 1,131 烏

居光太郎, 1,066 出川雄二郎, 調査

理事 1,206 森脇義雄, 1,178 吉岡俊

男, 1,163 山村昌

支部役員 半数改選の当選者は次

の如くである。(○印は本部評議員兼任者 \* 印は支部長推薦評議員)

### 東京支部

支部長 宮本 茂業(東芝)  
庶務幹事 佐藤 勇吉(東京電力)  
会計幹事 丹羽 登(東大)  
評議員 栗屋潔(東工大), 池田三穂司(電試), 石崎達弥(東芝), ○喜安善市(通研), ○高木純一(早大), 西野治(東大), ○鳩山道夫(電試), ○三好義太郎(東芝), 望月俊夫(電源開発), ○森義雄(電気協会)

### 関西支部

支部長 熊谷 三郎(阪大)  
庶務幹事 桜井 良文(阪大)  
会計幹事 正井 透(関西電力)  
評議員 佐伯精之(住友電工), ○田中哲郎(京大), 田宮利彦(三菱電機), ○藤木永三(阪大), 山根 宏(関西電力)

### 九州支部

支部長 宮田 秀介(九州電力)  
庶務幹事 宮副 泰(九大)  
会計幹事 西村 利夫(九州電力)  
評議員 井芹洋男(九州電力), 下田正夫(安川電機), ○辻節三(九大), 本郷式良(安川電機), 三宅章(八幡鉄製)

### 東北支部

庶務幹事 本多 波雄(東北大)  
会計幹事 鳩山操一郎(東北電力)

評議員 ○草刈遼(岩手大), 中黒秀和(東北電力), 二村忠元(東北大), \*井上友一郎(日本水素)

### 東 海 支 部

庶務幹事 赤尾 保男(名大)

会計幹事 片岡 文雄(中部電力)

評議員 宇田弘道(中部電力), 上吉原利平(静岡大), 木村章介(日立), ○高梨辰三(東芝)新丈夫(関西電力)

### 中 国 支 部

支部長 村田 可朗(中国電力)

庶務幹事 井清 哲夫(中国電力)

会計幹事 杉本 均(中国電力)

評議員 足立迪(広島放送局), 小野恒造(広島電通局), ○梶原勘三郎(広島大), 添田貫一郎(東洋工業), 森本庄司(日立), 横田英雄(中国電力), \*鈴木昌信(広島工高)

### 北 海 道 支 部

庶務幹事 小池東一郎(北大)

会計幹事 石沢 後雄(北海道電力)  
評議員 ○小山田惣次郎(北海道電力), 小林吾妻(王子製紙), 平林金之助(電波管理局)

### 北 陸 支 部

支部長 西岡 敬二(金沢大)

庶務幹事 森本 芳夫(北陸電力)

会計幹事 水上 塁夫(金沢大)

評議員 水落豊男(関西電力), 森光三(富山大), ○米沢賢次郎(北陸電力)

### 四 国 支 部

支部長 石黒 美種(徳島大)

庶務幹事 鈴木 喜彦(徳島大)

会計幹事 徳岡 穂(四国電力)

評議員 伊藤 努(徳島大), 蒲原理彦(四国電力), 末広正一(住友共電), 中岡保(四国通産局), (山本好太郎(四国電力), 徳永要(四国電力), 野本尚敬(愛媛大)(徳永, 野本両氏は任期1年)

## 第 42 回通常総会

昭和 29 年 5 月 15 日午後 2 時から日本電気協会講堂に開催, 出席正員 2,015 名 (中委任状 1,979 名) 安蔵会長司会のもとに次の件を執行した。

- (1) 昭和 28 年度事務及び事業報告の件
- (2) 同 収支決算報告の件
- (3) 定款及び本会規則改正の件
- (4) 信越支部設置の件
- (5) 昭和 29 年度予算の件
- (6) 浅野賞, 電力賞, 電気学術振興賞贈呈の件
- (7) 役員改選報告の件
- (8) 新会長挨拶

(1) は山田総務理事, (2) は三田会計理事から報告があり, いずれも原案を承認した。(3) は山田総務理事から説明があり, 別記の通り改正を可決した。(4) については山田総務理事から「本年 4 月長野県及び新潟県在住の会員有志から両県下を区域として信越支部設置の申請があった。申請書としては完備したものではなかったが, 総会までには完備する見透しのものと提案したのであるが, 最近に至って一先ず申請取下げの申出があった。よって本議題は取消することとした」と旨説明があり, これを了承した。

(5) は三田会計理事から説明あり原案の通り可決した。(6) は会長から別記諸君にそれぞれ賞状及び賞金を贈呈, これに対し森田, 白川, 吉田(振興賞絶代) 3 氏から謝辞が述べられた。

(7) は山田総務理事これを報告, 終って安蔵会長から退任役員を代表して挨拶があり, 島津新副会長から会員を代表しての謝辞が述べられた。

次で石川新会長から就任の辞があり (7 月号掲載) 4 時総会を終了した。

## 昭和 28 年度会計報告

### (1) 一般会計, 調査会計, 出版会計

収 入 の 部				
科 目	一般会計	調査公計	出版会計	計
会 贻 収 入	3,216,369	3,899,950	5,113,943	12,230,262
正 会 費	2,994,546	0	4,491,820	7,486,366
准 会 費	0	0	507,823	507,823
特 例 会 費	62,520	0	0	62,520
入 会 金	159,303	0	0	159,303
終身会員寄附金	0	0	114,300	114,300
維持員会費	0	3,899,950	0	3,899,950
利 予 収 入	841,121	0	0	841,121
雑 誌 収 入	0	0	561,112	561,112
図 書 収 入	0	0	10,968,347	10,968,347
広 告 収 入	0	0	4,717,300	4,717,300
補 助 金	0	158,724	0	158,724
雑 収 入	5,480	89,863	4,894	100,237
繰 越 金	0	156,313	0	156,313
合 計	4,062,970	4,304,850	21,365,590	29,733,416

支 出 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
事務所費	108,149	98,900	382,200	589,249
事務費	1,055,527	883,977	2,813,026	4,752,530
会議費	94,150	47,270	47,270	188,690
通信費	138,207	68,500	68,500	275,207
集金費	159,951	31,840	127,700	319,491
旅費	11,140	5,680	5,680	22,500
職員退職給与金	273,500	0	0	273,500
都税	9,720	0	0	9,720
支部費	957,690	0	0	957,690
大会費	102,480	0	0	102,480
賞金費	130,140	0	0	130,140
賛会費	48,093	0	0	48,093
規格調査費	0	1,197,435	0	1,197,435
技術調査費	0	1,365,672	0	1,365,672
雑誌出版費	0	0	11,455,937	11,455,937
図書出版費	0	0	8,298,713	8,298,713
合 計	3,088,747	3,699,274	23,199,026	29,987,047
収支過不足	(+) 974,223	(+) 605,576	(-) 1,833,430	(-) 253,631

(備考) 一般会計剩余金は特別積立金に繰入れ、調査会計剩余金は次年度に繰越す。

## (2) 出版会計損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
収 入	21,365,596	支 出	23,199,026
期末未収入金	518,663	期首未収入金	338,276
期末商品	1,768,833	期首商品	731,367
合 計	23,653,092	合 計	24,268,669
		収支不足金	615,577

特別講演会 総会に引つづき下記講演があり、5時45分終了した。

### 2. 海外の航空通信について

日本電気株式会社

工博 小林 正次君

### 定款及本会規則改正

(会費支払方法が変る)

### 定款改正

### 第十七条中

正員 月額金百円、但半箇年分前納ノ場合金五百円、壹箇年分前納ノ場合金壹千円

准員 月額金五拾円、但半箇年分前納ノ場合金貳百五拾円、壹箇年分前納ノ場合金五百円

とあるを次の通り改める。

正員 月額金百円

准員 月額金五拾円

第五拾条 改正セラレタル会費ハ昭和二十七年四月一日ヨリ之ヲ実施シ既納会費トノ差額ハ月割トス

とあるを次の如く改める。

第五拾条 改正セラレタル会費支払

方法ハ昭和二十九年四月一日ヨリ之ヲ実施シ既納会費トノ差額ハ之ヲ徵収セス

### 本会規則改正

第五条(次)を復活し次の通りとする

第五条 正員及准員ノ会費ハ毎年四月ヨリ九月ニ至ル半箇年分ヲ其ノ年ノ四月末日迄ニ、十月ヨリ三月ニ至ル半箇年分ヲ其ノ年ノ十月末日迄ニ納付スルコトヲ要ス但団体トシテ会費ヲ納付スル者及特ニ承認ヲ得タル者ハ之ヲ分納スルコトヲ得

新ニ入会シタル者ハ入会ノ月ヨリ前項ニ準シ会費ヲ納付スルモノトス

会員ノ資格ヲ変更シタル者ハ資格変更ノ翌月ヨリ新資格ニ相当スル会費ヲ納付スルモノトス

### 第五条ノ二中

月額金参拾円、但半箇年分前納ノ場合金百五拾円、壹箇年分前納ノ場合金参百円

とあるを次の通り改める。

月額金参拾円

改正理由 本会雑誌は相当部厚いものとなってきた。一冊当りの経費については、去る12月号に「電気学会雑誌経理白書」と題して詳細なる計算を発表した。これは28年4月号～9月号の上半期の実績であるが、1冊平均154ページで103円20銭である。

その後10月号～3月号の下半期は平均158ページであるからこの単価は更に上廻るのであるが、仮りに(887ページにつづく)

### (3) 出版会計利益金処分

本期不足金	615,577
前期納税引当金残	54,316
前期繰越金	615,103
差引後期繰越金	53,842

### (4) 欠損処分

死亡、退会、除名による未納会費で収入の見込のない正員会費377,620円、准員会員72,450合計450,070円を欠損処分とする。

## (5) 調査委託費

種 別	収 入				支 出	収支 次年 繰越
	繰越金	補助金	受入金	計		
珪素鋼板	173,738	150,000	0	323,738	180,000	143,738
点弧子	1,840	0	0	1,840	1,840	0
電気鉄道	6,371	0	250	6,621	0	6,621
電蝕防止	44,318	0	191,440	235,758	282,902	(-) 47,144
誘導調整	523,320	0	0	523,320	456,597	66,723
用語	66,769	97,300	20,453	184,522	184,522	0
需用計	206,667	0	71,262	277,929	277,929	0
電波障害	985,015	0	450,000	1,435,015	1,109,298	325,717
送電々圧	0	0	330,000	330,000	309,884	20,116
C I G R E	0	0	443,000	443,000	335,917	107,083
計	2,008,038	247,300	1,506,405	3,761,743	3,138,889	622,854

## (6) 御下賜金、委託金、寄附金利子

種 別	収 入			支 出	収支 次年 繰越	使 途
	繰越金	利子	計			
御下賜金	105	21	126	0	126	
池田資金	3,247	426	3,673	0	3,673	
大井資金	1,736	186	1,922	0	1,922	
浅野資金	22	922	944	900	44	賞 金
広部資金	998	152	1,150	0	1,150	
橋木資金	7,509	2,750	10,259	0	10,259	
鳥渕資金	642	360	1,002	0	1,002	
岸資金	1,026	1,800	2,826	0	2,826	
岩垂資金	139,099	38,914	178,013	112,302	65,711	研究費、講演会費
大同電力資金	1,498	2,700	4,198	1,000	3,198	賞 金
日立資金	68,821	35,000	103,821	0	103,821	
関西共同火力資金	2,228	900	3,128	2,000	1,128	賞 金
富士電力資金	3,437	1,500	4,937	4,000	937	"
京浜電力資金	6,865	4,500	11,365	9,000	2,365	"
日本発送電資金	537,590	500,000	1,037,590	612,413	425,177	賞金、名簿出版費
東北配電資金	0	42,500	42,500	0	42,500	
合 計	774,823	632,631	1,407,454	741,615	665,839	

## (7) 連合大会

種 別	収 入			支 出			収支過不足		
	本会報	通信報	計	本会報	通信報	計	本会報	通信報	計
27年全大繰越金	28,421	0	28,421	0	0	0	28,421	0	28,421
28年全大論文集出版	1,235,925	135,275	1,371,200	1,205,786	8,100	1,213,886	30,139	127,175	157,314
28年支大 "	101,420	1,120,555	1,221,975	9,471	1,238,564	1,248,035	91,949	(-)118,099	(-) 26,060
29年全大 "	273,400	0	273,400	1,080,655	0	1,080,055	(-)806,655	0	(-)806,655
28年全大実行委員会	139,510	0	139,510	139,510	0	139,510	0	0	0
29年全大 "	2,400	0	2,400	23,705	0	23,705	(-) 21,305	0	(-) 21,305
合 計	1,781,076	1,255,830	3,036,906	2,458,527	1,246,664	3,705,191	(-)677,451	9,166	(-)668,285

103 円 20 銭としても年 1,238 円 40 銭で現在の会費では到底賄い切れないものである。さればとて雑誌のページ数を圧縮することは学会本来の使命にかんがみ妥当でないので、29 年度は平均 160 ページを維持すること

とし、それで経費を計算した結果、29 年度における図書収入の剩余金を繰入れ、また雑誌広告面の拡張と料金 2 割値上による増収を見込み、尙かつ最小限度会費の 2 割増収を圖らなければ計算が立たない結論とな

ったのである。

そこで、半年分または 1 年分前納による割引制を廃止し実質的に 2 割の増収を図ることとしたのである。

### 功 績 表 彰

昭和 29 年 5 月 15 日第 42 回通常総会において次の授賞が行われた。

**浅野賞** 東京工業大学

工博 森田 清君

**電力功績賞** 東北電力

白川 応則君

**電力技術賞** 電気試験所

工博 法貴 四郎君

**電気学術振興賞**

**進歩賞** 送電線故障点指示装置  
の開発

電力中央研究所 広瀬 肥君

同 後藤 盛一君

同 有働 竜夫君

**進歩賞** 東北電力株式会社におけるマイクロ波通信の実施

東北電力 山内 信君

同 木村 幸雄君

同 植田 瑞穂君

**進歩賞** 交流計算盤の建設及び運用

電気試験所 山田太三郎君

同 日高 一彦君

同 深尾 耕君

**三菱電機** 新井 正元君

**進歩賞** 東京電力株式会社日比谷送電線及び日比谷変電所の完成

東京電力 吉田 碩太君

同 高木 利夫君

**論文賞** 半無限中空円筒導体に関する電磁界について

電気試験所 飯島 泰藏君

**論文賞** 電気機械動作特性の理論的明

東京工業大学

工博 加藤 邦弘君

**論文賞** 水銀蒸気弧光放電の機構について外 2 件

### (8) 貸 借 対 照 表

(昭和 29 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部			
科 目	公 益	収 益	計
有価証券	2,531,009	0	2,531,009
信託預金	813,300	0	813,300
投資信託	3,500,000	0	3,500,000
定期預金	20,000	0	20,000
銀行預金	3,914,405	0	3,914,405
振替貯金	156,791	0	156,791
現金	50,108	0	50,108
備品	6,507	0	6,507
通信教育繰入金	800,000	0	800,000
仮払金	113,030	0	113,030
立替金	443,430	0	443,430
商品	0	1,768,833	1,768,833
未収入金	0	518,663	518,663
連合大会勘定損金	677,451	0	677,451
合 計	13,026,031	2,287,496	15,313,527

負 債 の 部			
科 目	公 益	収 益	計
御下賜金	200	0	200
基本財産	171,682	0	171,682
委託金	20,418	0	20,418
寄附金	6,794,213	0	6,794,213
特別積立金	2,486,331	0	2,486,331
調査準備金	60,443	0	60,443
職員退職給与積立金	887,079	0	887,079
繰越金	605,576	53,842	659,418
図書館勘定	9,239	0	9,239
調査委託費勘定	622,854	0	622,854
資金利子勘定	665,839	0	665,839
雑勘定	17,494	0	17,494
納税預り金	188,440	0	188,440
仮受金	496,223	0	496,223
出版会計流用金	0	2,233,654	2,233,654
合 計	13,026,031	2,287,496	15,313,527

日立製作所  
理博 木村 鐘治君  
文献賞 非線型振動論の著述  
京都大学  
工博 林 千博君

## 通信教育特別会計

## (1) 損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
講 座 収 入	3,623,171	図 書 出 版 費	8,775,993
講 座 収 入	3,490,074	業 務 費	1,470,808
雑 収 入	49,691	管 理 費	2,922,686
期首末前受金差	83,406	期 首 商 品	1,806,310
図 書 頒 布 収 入	11,862,542	期 首 原 材 料	383,603
図 書 頒 布 収 入	9,088,747	消 却 積 立 金	9,000
期首末売掛金差	2,773,795	貸 倒 積 立 金	90,900
期 末 商 品	1,186,837		
期 末 原 材 料	343,116		
合 計	17,015,666	合 計	15,459,300
		収 支 剰 余 金	1,556,366

## (2) 利 益 金 処 分

当期剰余金 1,556,366 円を収入の比率により、公益事業 434,542 円、収益事業 1,121,824 円に分割して収益事業に対する納税引当金を決め、次の如く処分する。

本期 剰 余 金	1,556,366 円	納 稲 引 当 金	440,000 円
前期 繰 越 金	533,093 円	厚 生 積 立 金	500,000 円
合 計	2,089,459 円	元 入 金 繰 入	945,481 円
		後 期 繰 越 金	203,978 円
		合 計	2,089,459 円

## (3) 貸 借 対 照 表

(昭和 29 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	1,287	未 払 金	294,750
銀 行 預 金	81,531	前 受 金	1,470,024
振 替 貯 金	25,189	元 入 金	3,000,000
売 挂 金	4,358,618	厚 生 積 立 金	500,000
商 品	1,186,837	消 却 積 立 金	15,650
原 材 料	343,116	貸 倒 積 立 金	130,700
備 品	66,000	納 稲 積 立 金	447,476
合 計	6,062,578	繰 越 金	203,978
		合 計	6,062,578

られた。即ち電波の到来方向を決するマイクロ波方向探知機及び電波勢力の流れの強さと方向を測定する電波流量計を発明して球体の周囲における電波の流れを明らかにし、又無饋電中継を行う方式については金属反射板による方法、タブレットのピームカーテンを用うる方法、短かいタブレットの巧妙な特殊配置による電波プリズム等の発明と研究を完成し、国内各地で実施されつつあり、無線工学の進歩発達に貢献するところ極めて大である。

依て賞金贈与規程第二条により浅野賞を贈呈する。

昭和 29 年 5 月 15 日

電気学会々長 安藤 弥輔  
工学博士 森田 清殿

## —電力功績賞贈呈文—

貴下は東北電力株式会社における只見川水系の電源開発に当り技術上の最高責任者として適切なる計画と諸種新規施設の採用により短期間に大容量の発電を開始するに至らしました。世界有数なる沼沢沼揚水発電所、高落差大容量カプラン水車採用の本名発電所の完成、単相閉路方式自動周波数調整装置、マイクロ波通信方式の採用等は特筆すべきもので我が電気事業の発展に貢献するところ多大である。

依て賞金贈与規程第三条により電力功績賞を贈呈する。

昭和 29 年 5 月 15 日

電気学会々長 安藤 弥輔  
白川 応則殿

## —電力技術賞贈呈文—

貴下は多年高電圧工学関係の研究に従事し、幾多重要課題の解決に尽瘁せられた。即ち電気機械の衝撃電圧試験法、送電系統の絶縁設計基礎及び絶縁劣化判定方法の確立、避雷器の放電耐量の向上、故障点検出方法の実用化に寄与し、又 250 キロボ

ルト超高压送電用導体のコロナ特性試験の実施に協力し、新北陸送電幹線の導体選定に当たり基本的な重要な資料を提出し、近くは直流高電圧発生装置による電線及び碍子類の直流高電圧特性を研究し設計上の基礎的問題の解明に尽力される等我国高電圧工学の発達に貢献された功績は多大である。

依て賞金贈与規程第三条により電力技術賞を贈呈する。

昭和 29 年 5 月 15 日

電気学会々長 安藤 弥輔  
工学博士 法貴四郎殿

#### 講 演 会 記 錄

#### 東 京 支 部

電力映画の会 昭和 29 年 4 月 15 日、虎の門共済会館において開催、下記を映写した。(出席者約 400 名)

1. 生産の話(電動機の話)(富士電機), 2. ケーブル製造工程(住友電工), 3. 東京電力日比谷送電線布設状況(古河電工), 4. 水素冷却タービン発電機製造工程(三菱電機), 5. 発電機製造工程(東芝)沼沢沼発電所(ポンプの製作及び据付工事等)(日立)

#### 東 海 支 部

技術映画の会 29 年 4 月 14 日、名古屋商工会議所において総会終了後開催下記を映写した。(参加 150 名)

1. 超高压新北陸幹線(東海電工), 2. 水素冷却ターボ発電機の製作(三菱), 3. 名港発電所、丸山発電所(東芝), 4. 日比谷 6 万 V ケーブル施設、新北幹線送電線(古河), 5. 丸山ダム他 3 卷(関西電力)

見学会 6 月 5 日中部電力名港火力発電所を見学、浅田所長の概要説明があった。(参加 109 名)

#### 九 州 支 部

講演会 29 年 4 月 23 日、九大に

### 昭 和 29 年 度 予 算

#### (1) 一般会計、調査会計、出版会計

収 入 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
会 費 収 入	3,403,000	3,432,000	6,957,000	13,792,000
正 員 会 費	3,164,000	0	5,876,000	9,040,000
准 員 会 費	0	0	548,000	548,000
特 例 会 費	59,000	0	0	59,000
入 会 金	180,000	0	0	180,000
終身会員寄附金	0	0	105,000	105,000
維持員会費	0	3,432,000	428,000	3,860,000
利 子 収 入	176,000	0	0	176,000
雑 誌 収 入	0	0	479,000	479,000
図 書 収 入	0	0	4,977,000	4,977,000
広 告 収 入	0	0	5,822,000	5,822,000
補 助 金	0	130,000	0	130,000
雑 収 入	3,000	0	0	3,000
繰 越 金	0	605,576	0	605,576
合 計	3,582,000	4,167,576	18,235,000	25,984,576

支 出 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
事 務 所 費	75,000	70,000	362,000	507,000
事 務 費	1,138,000	982,000	3,378,000	5,498,000
会 議 費	80,000	40,000	40,000	160,000
通 信 費	108,000	55,000	55,000	218,000
集 金 費	203,000	41,000	163,000	407,000
旅 費	12,000	6,000	6,000	24,000
職員退職給与金	274,000	0	0	274,000
都 税	10,000	0	0	10,000
諸 会 費	29,000	0	0	29,000
支 部 費	1,106,000	0	0	1,106,000
大 会 費	100,000	0	0	100,000
賞 金 費	132,000	0	0	132,000
規 格 調 査 費	0	1,200,000	0	1,200,000
調査研究委員会費	0	1,230,000	0	1,230,000
雑 誌 出 版 費	0	0	11,705,000	11,705,000
年 報 出 版 費	0	0	1,155,000	1,155,000
技術報告出版費	0	0	442,000	442,000
図 書 仕 入 費	0	0	100,000	100,000
図 書 発 送 費	0	0	100,000	100,000
予 備 費	315,000	543,576	729,000	1,587,576
合 計	3,582,000	4,167,576	18,235,000	25,984,576

## (2) 通信教育特別会計

科 目	収 入	科 目	支 出
講 座 収 入	4,948,000	教 材 費	12,757,000
大学講座	4,125,000	材 料 費	5,207,000
工高講座	823,000	印 刷 費	5,430,000
図書頒布収入	16,718,000	編 修 費	2,120,000
大学講座	11,247,000	業 務 費	2,097,000
工高講座	5,471,000	指 導 費	1,017,000
雜 収 入	100,000	通 信 費	500,000
利子収入	80,000	宣 伝 調 査 費	580,000
雜 収 入	20,000	管 理 費	4,540,000
		事 務 費	720,000
		給 与 費	2,900,000
		交 通 費	240,000
		雜 費	680,000
		予 備 費	2,372,000
合 計	21,766,000	合 計	21,766,000

において総会終了後開催、下記講演があった。(出席者約 80 名)

1. 都城二次系直接接地による昇圧に就いて  
九州電力変電課 中島 忠輔君
2. ライブニックの夢と記号論理学  
九大 伊藤 謙君

## 北海道支部

講演会 29年4月24日、市民会館において総会終了後開催、下記講演があった。(出席約 120 名)

2. 電気防触について  
重野 隼太君
2. 映画 腐蝕の活動

## 29年東京大会記事

昭和 29 年連合大会は東京において予定の如く行われた。参加者約 1,300 名、盛況裡に滞りなく終了した。

特別講演 5月1日午後1時~4時、東大工学部3号館に開催(2,3は講演予稿を頒布した)

- (1) 開会の辞  
実行委員長 駒井健一郎君
- (2) 電源開発の諸問題

通産省公益事業局  
佐伯 貞雄君

- (3) 放射能の利用  
科学研究所  
理博 山崎 文男君

- (4) 欧米の照明について(天然色スライド使用)

東京芝浦電気会社  
砂田 茂君

部門講演、一般講演 5月2日、3日午前、午後、東大工学部2号館、3号館 12会場において、部門講演9件、一般講演 591 件(中欠講9件)が行われた。

懇親会 5月2日午後5時半から学士会館において開催、出席約 170 名、立席にてビール、サンドウイッチを囲む簡素なものであったが、東芝提供の ITV に興を添え、駒井実行委員長の司会のもとに安藤本会長、林通信副会長、大山照明会長、野口孝重、抜山平一、原田恭介、松田長三郎、石川潔の諸君の発言あり和氣あいあいのうちに終了した。

見学会 A 5月3日午後5時20分地下鉄お茶の水駅集合、地下鉄新線見学、池袋駅からバス3台に分乗

東京の照明巡りを行った。恰も大雨にて充分の見学を行うことができなかつたのは残念であった。

見学会 B 5月4日午前、午後次の8箇所を見学した。

- (1) NHK テレビ放送所
- (2) 電々公社無線中継所
- (3) 日本無線会社レーダー実験
- (4) 電気通信研究所
- (5) 東京電力潮田火力発電所
- (6) 日本钢管川崎製鉄所
- (7) 川崎製鉄千葉製鉄所
- (8) 東大生産技術研究所

展示会 5月1日~3日、電線工業会協力のもとに東大3号館内に電線及びケーブル関係製品の展示を行った。

## 電気学会新任、留任役員

会 長 石川 潔

副 会 長 山下 英男 島津保次郎

島山 四男 白川 応則

総務理事 富山 順二 久野 清

会計理事 三田 升 林 潔

編修理事 尾佐竹 徳 池田三穂司

永井 勝三 中島 正道

調査理事 田中直治郎 森脇 義雄

支 部 長 片山 辰雄 白川 応則

宮本 茂業 岸本 通智

西岡 敬二 熊谷 三郎

村田 可朗 石黒 美種

宮田 秀介

評議員 浅野一郎 小山田惣次郎

若林 疊 草刈 達

宇野 辛一 喜安 善市

金岩 芳郎 高木 純一

齋藤 幸男 鳩山 道夫

友田三八二 三好義太郎

和田 重暢 森 義雄

神 米一郎 高梨 長三

鈴木 長次 米沢賢次郎

浅井徳次郎 田中 哲郎

辻 藤吉 藤本 永三

古賀 七郎 梶原勘三郎

安堂 勝年 清原 理彦

隈本 寛 辻 節三